

FC岐阜とバロー

余った食品受け付け

フードドライブ共闘

サッカーJ3のFC岐阜と、オフィシャルパートナーを務めるバローホールディングス(HD)は3日、長良川競技場(岐阜市長良福光)で行われたホーム戦で、家庭で消費しきれない食品を募り、必要とする人に届けるフードドライブ活動を始める。



フードドライブ活動に参画していく岐阜フットボールクラブの小松裕志社長(左)とバローホールディングスの秋元武サステナビリティ推進室長(同2人目)ら。3日午後、岐阜市長良福光、長良川競技場。

今季全ホーム戦、集客力生かす

た。今季全てのFC岐阜のホーム戦で行う。

「食を通して、地域コミュニティ強化に貢献し、誰一人取り残さない社会へ」をビジョンにバローHDが活動を運営し、FC岐阜が会場を提供。集まった食品は、県社会福祉協議会子どもの居場所応援センターを通じて子ども食堂などに届けられる。

バローHDの秋元武サステナビリティ推進室長や岐阜フットボールクラブの小松裕志社長が3日、活動を説明する記者会見を行った。秋元室長は「県内で最も集客力があるFC岐阜と、子ども食堂を支援する社会福祉協議会と協力し、オール岐阜という形で取り組みを実現する」と述べた。

1試合で20キロ以上の食品を集めることが目標。試合開始3時間前からキックオフまで受け付ける。次回のホーム戦は今年28日午後7時キックオフのカターレ富山戦。(棚橋滉斗)